

長島文芸

長島短歌会

降りしきる雨は疎しと眺むれば軒端に雀二・三羽あそぶ
 幾たびも行つてみたしと思ふ鳥目の前に霞みて甌見へ居り
 白梅を空に飛ばして春一番庭の隅まで匂ひ漂ふ
 台風の名残りに倒れ花毯の紫陽花車道に傾きをりぬ
 足腰が痛みつつ田畔塗り居れど家常のことと雲を仰ぎぬ
 同窓の友と不意なる出會ひにて語り足りなく惜しむ夕暮れ

中山タマエ
 浜田美代子
 松元睦子
 岩下ち江
 米尾和子
 坂之下典子

一般作品

雨よ降れ停電多し山に降れダムを満たせよ電気を頼む
 くらがねのもちの木高みにヒナが二羽カラス羽音す巢立ちも間近
 文芸の締切り遅れやらかした駄作と自認するもやはりくやしく
 ほのかなる香りうれしく鈴蘭の花咲く庭はみごと広がり
 降り続く梅雨の雨音静かにて反省似合うモノクロの刻
 年なると思つて居ても出来ないね情けないのよ面白い事だよ
 同郷の友が眠れる保福寺の墓前に集えば初夏の風ふく
 入り船の夢は何に当たるやら

小林 貢
 小林如月
 小林如月
 中反屋辰子
 後藤ヨシエ
 町田末則
 母木良平
 宗方正喜

長島の

歌人集まる

広場あり

明神俳句会

ひとり住む卒寿の母や柿の花
 すり減りし父の椅子撫つ今朝の夏
 桶浮いて浜の口開く五月かな
 玄関に逃げ足速き蜥蜴かな
 離れ子の身を案じをり子供の日
 車窓より手を振りデイへ五月晴れ

淵脇 護
 白男川孝仁
 二階堂妙子
 大堂正弘
 関喜久雄
 大堂早苗

島住みの言葉は方言柿の花
 過疎の村雲をとばして鯉のぼり
 ふるさとは潮の匂ひ子供の日
 山寺の目高や古き手水鉢
 花フェスタおにぎりほぼぼる家族づれ

山寄加代子
 二階堂恵子
 迫口君代
 関佳代美
 坂口静子

町立図書館のおすすめ

図書館に置いてある本の中から、おすすめを選びました。バラエティに富んだ本を紹介



大人になってもこまらないマンガで身につく伝わる話し方

監修：牛窪 万里子

心も体も元気になる呼吸法や、相手に伝わる話し方を身につけよう！



家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった + かきたし

著：岸田 奈美

笑えて泣けて、考えさせられる自伝的エッセイ

町立 指江図書館 ☎ 0996-88-5651

町立 鷹巣図書館 ☎ 0996-86-1121